

長瀬小学校では、毎年「ハイパー Q-U テスト」（早稲田大の河村教授が考案）を実施している。これは子供一人一人が学級集団内で「どのような気持ちで生活し」「どのような立ち位置にいるか」を科学的に分析するものである。普段から担任を中心として、全職員が子供を見守り、毎月 1 回の生活アンケートも行っているが、いつも一緒に生活しているだけに「メガネ」をかけて見ている可能性がある。

「ハイパー Q-U テスト」は、子供が簡単なアンケートに答えていくだけで、人間関係や生活上の課題を客観的なデータとして表すものである。例えば「学級生活に満足していない子」「自分は認められていないと感じる子」「いじめられていると感じている子」などが、はっきりグラフで表示される。

私たちにとってはドキドキするテストである。日頃の「見立て」と違う結果になることもあるからである。つまり、いつもみんなと仲良く活動しているようでも、内面では「疎外感」を感じていたり、先生方とたくさん話をしている子供が「認められていない」と感じていたりするのである。

私たちは、この結果を分析して全職員で確認し、よりフォローが必要な子供に支援するようにしている。人と人との関わり方の問題である以上、改善の特効薬はないし、劇的な変化は期待できない。

しかし、全職員が配慮すべき子供を把握し、授業や学校生活で意識して指導することが、大切なことであり、教育のプロとしての仕事だと思っている。